

ほほえみ通信

2020/8/28 発行

第133回 ほほえみ 開催

8月19日(水)第133回 ほほえみを開催しました。
今回は2名の方が参加してくれました。

参加に際しましては、感染予防対策のため手指消毒・検温・連絡先の確認(感染予防にのみ使用します)をさせていただいておりますので、ご協力をお願い致します。

がんサロン“ほほえみ”
開催にあたって

- *皆様ご使用になる前に、机・椅子・ドアノブなど、手が触れる部分を消毒してあります。
- *30分おきに、換気をさせていただきます。
- *マスクは付けたままでご参加下さい。
- *石鹸で手を洗った後に、消毒液を付けていただきます。
- *参加者名簿に名前と電話番号の記載をお願いいたします。

次回のほほえみは、9/16(水)14時から16時まで
本館3階 特別会議室での開催となります

【がんサロン事務局より】

『いつまで“がん患者”？』

(がん体験記)

「がんは、手術して終わりという病気ではありません」——。

そう聞いたことがある人はきっと少なくないでしょう。そして、がんを経験した誰もが実感していることと思います。

私も乳がんがわかったとき、看護師さんにそう言われました。がんは手術を終えても抗がん剤などの治療があります。その後も検査を続けていかなければなりません。「手術をして終わりじゃない」ということは、頭の中では理解しているつもりでした。

でも実際に長期間の治療に入り検査を続けていくと、その言葉の本当の意味を知ることになります。それは“再発の不安”です。

再発の不安は、“永遠”と言ってもいいかもしれません。治療が終わると、「長い治療が終わってすっきりした～」という安堵よりも、“頼るものがなくなった”という恐怖にも陥りました。「この薬が、がんをやっつけてくれていたんだ・・・」という安心感がなくなってしまったのです。

一度がんになると、一生“がん”から逃れられないような気がします。そして時々思うのです。

「がんであることを忘れたいなあ・・・。がんを休みたいなあ・・・」と——。

(北海道／女性／乳がん／がん患者本人)